

令和2年度 協働型学校評価の結果について（報告）

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、今年度の学校評価(保護者アンケート回答率96.1%)の結果について以下のように報告させていただきます。今回のアンケートでは、学校の教育方針や指導内容、児童の学校生活などについて貴重なご意見をいただきました。教職員一同、今後は学年末に向けて履修内容を確実に把握して今年度のまとめを行うとともに、次年度の教育活動の改善・実施に努めてまいります。ご協力ありがとうございました。

1 今年度の重点目標について

「相手への優しさ・感謝の気持ちを伝える『あったかことば』を広げよう」という到達目標の達成に向け、今年度は学校・家庭・地域の三者が次の2点の重点目標に協働で取り組んできました。

- 自分からあいさつができる児童
- 丁寧な言葉遣いができる児童

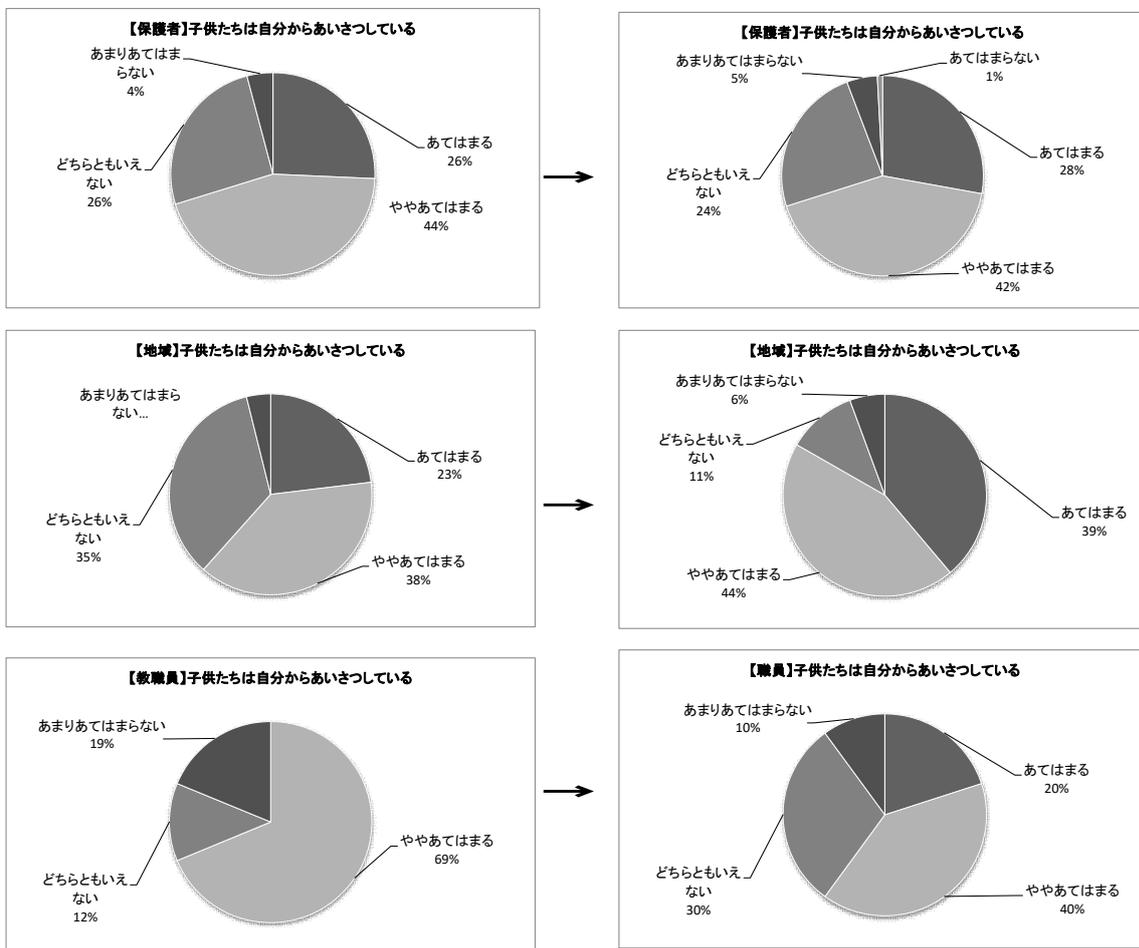
三者が評価を行うアンケートは、例年は7月と12月の2回行い、前期と後期の結果を比較してきましたが、今年度は新学期が6月から始まったことにより年1回、12月の実施としました。結果の分析と考察では、項目によっては単年度内の数値評価だけでなく、前年度との比較も行いました。

(1)「あいさつ」について

以下のグラフから分かるとおり、「子供たちが自分からあいさつをしているか」についての評価は、昨年度と比べて保護者は積極的な肯定が微増であるものの、地域は肯定率が大きく上昇し(61%→83%)、教職員は積極的な肯定が増加し(0%→20%)、否定的回答が減少しました(19%→10%)。

昨年度(令和元年12月)

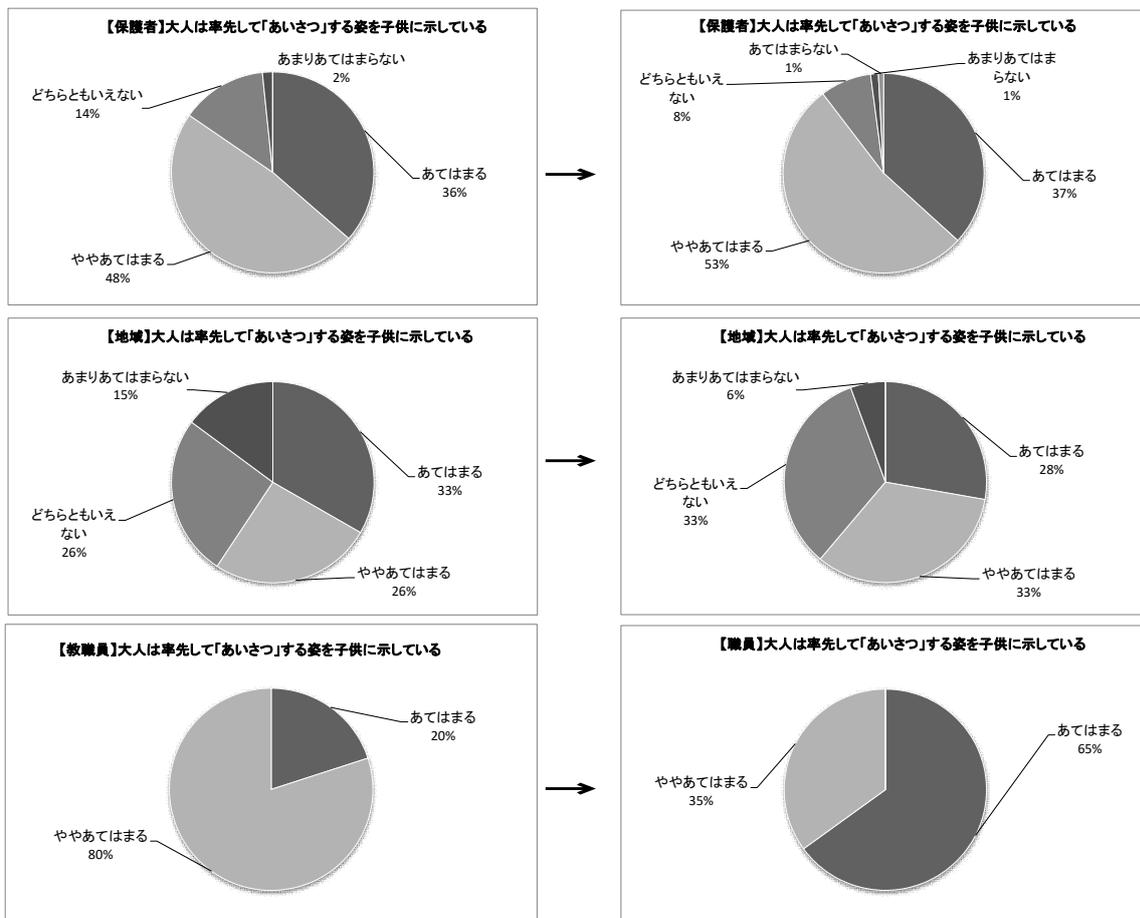
今年度(令和2年12月)



児童が進んであいさつをする姿についての評価が改善・向上している背景として、大人の行動の変化が考えられます。大人が率先してあいさつをして見せているということについて、保護者は肯定率が上昇し(84%→90%)、地域は否定的回答が減少(15%→6%)、教職員は積極的な肯定が大幅に増加しています(20%→65%)。

昨年度(令和元年12月)

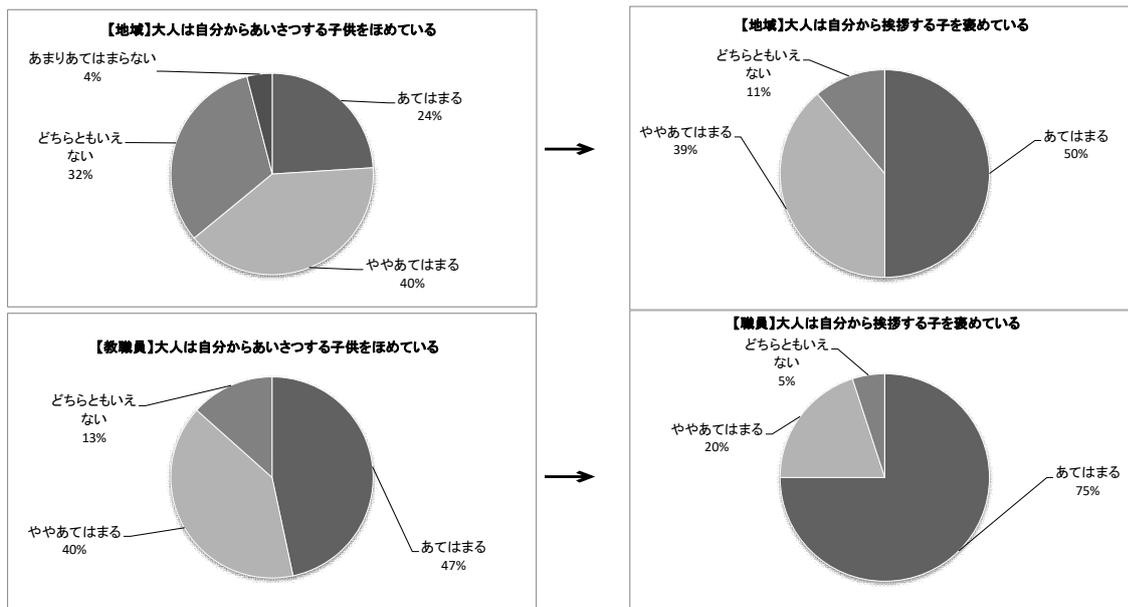
今年度(令和2年12月)



また、「自分からあいさつする子供を褒めている」ことについては、地域と教職員の肯定率が大きく増加しています。(地域: 24%→50%、教職員: 47%→75%)

昨年度(令和元年12月)

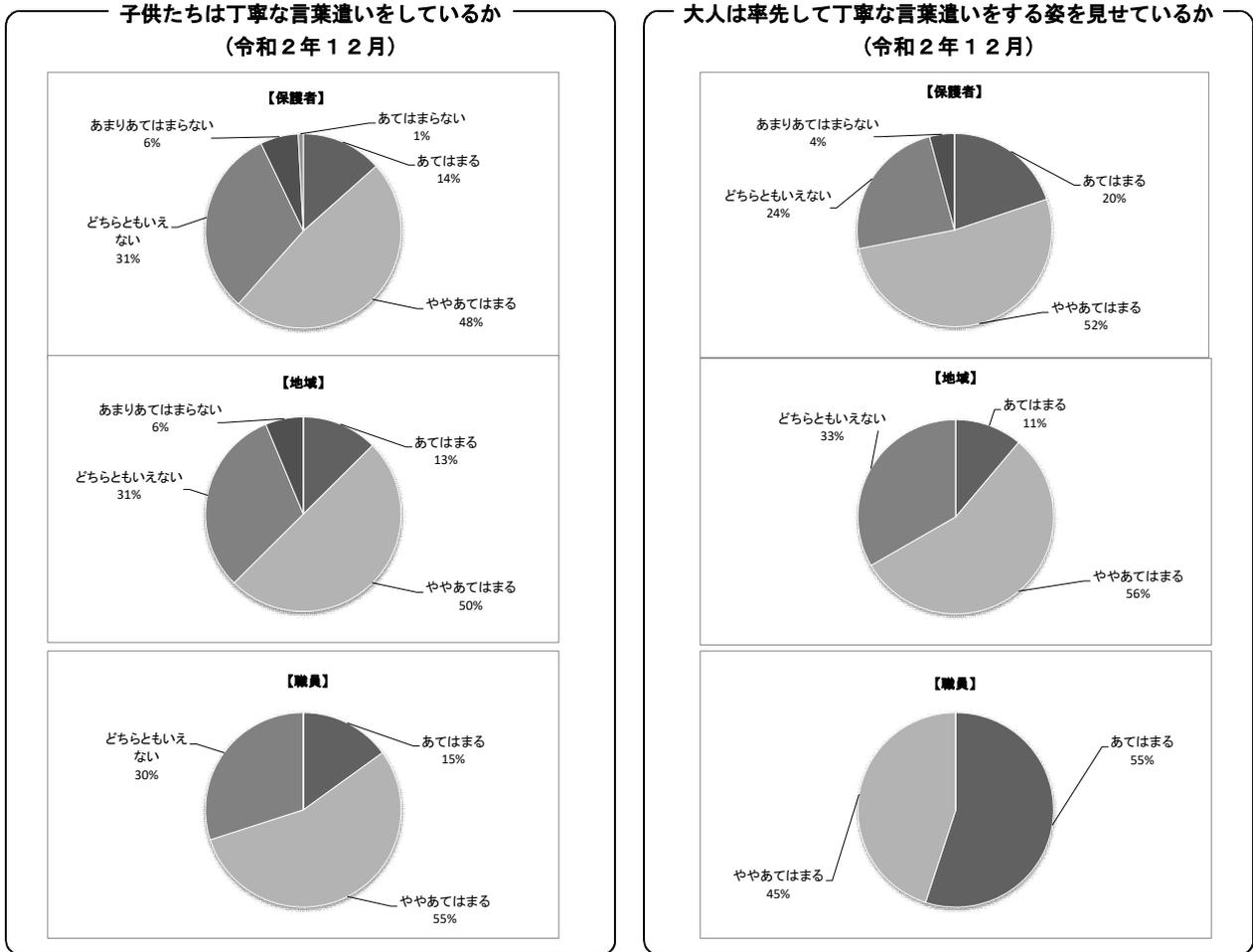
今年度(令和2年12月)



以上の結果から、「あいさつ」については、到達目標の達成基準としている80%の肯定的評価には届かなかったものの、全体として大きく改善してきていることがうかがわれます。大人が行動して見せた上で、できている子を称賛することが子供たちの変容につながると考えられることから、「あいさつ」は今後も重点目標に据え、継続した取組を行っていききたいと思います。

(2)「言葉遣い」について

「丁寧な言葉遣い」は、今年度の新たな評価項目とし、下記の設問をアンケートに加えました。結果はグラフに示したとおり、肯定率は概ね6～7割程度と、三者のいずれも低い傾向にあり、協働型学校評価の今後の課題が「言葉遣い」であることが浮き彫りになりました。



教職員による協議では、子供たちには言葉を「丁寧に」ということの捉え方が難しく、相手や場面によって必要とされる言葉も異なることから、大人も一概に判断することができないのではないかと、ということになり、1月の学校評議員会・学校関係者評価委員会においても同様のご指摘がありました。

こうしたことから、次年度の重点目標の2点目を「場に応じた言葉遣いができる児童」とし、三者協働での取組を行うことにしました。具体的には、大人が場面ごとに良い言葉やふさわしくない言葉を具体的に示し、学校においては児童会の議題として子供たち自身に考えさせたり教師自ら言葉遣いに気をつけたりするなど、手立てを検討していくことにします。

2 その他の結果について

以下は保護者アンケート中の各質問について「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合です。「学校は教育方針を分かりやすく伝える努力をしているか(85%)」、「教職員は適切に指導しているか(85%)」、「子供たちは友達と仲良くし、学校生活を楽しんでいるか(95%)」、「学校は緊急事態の対応や備えを適切にしているか(90%)」などの項目では、学校の取組に関しては保護者の皆様から概ね8割を超える高い評価をいただきました。

一方、「一人一人のよさを大切にしている教育を行っているか(79%)」、「体力向上のための取り組みを行っているか(74%)」、「学校は保護者、地域と協力し合い、よりよい学校づくりに努めているか(79%)」については、アンケートの記述回答や学校評議員・学校関係者評価委員の皆様のご意見にも改善の必要性についての指摘がありました。個に応じた教育や、体育の授業を中心とした体力作りについては、感染症対策のため制限される状況が続きますが、効果的な取組をできる範囲で工夫していきます。また、家庭・地域との連携については、こまめで具体的な情報の発信に努め、学校での子供たちの姿をご覧いただく機会も可能な限り設けることができるよう努力します。

今後も、教職員一同よりよい学校運営に努めてまいります。皆様の一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

保護者・地域アンケート記述回答（抜粋）

・入学して数日間は途中まで一緒に登校していました。その際、上級生が挨拶してくれました。とても気持ちがよく、我が子も自発的に元気に挨拶ができる子になってほしいと思いました。また、先生方がしっかりと働きかけているんだと感心しました。

・コロナ禍で大変な中、日々のご指導ありがとうございます。例年と異なり、面談や授業参観が行えない状況ですが、お便りを通して子供たちの様子をたくさん伝えていただき感謝しております。教育目標に向けて家庭でも「あったかことば」を実践して参りたいと思います。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

・入学式、始業式が延期となり、不安とストレスを抱え、自粛期間中には本当にお友達と過ごす毎日の幸せや大切さを再確認致しました。先生方のご努力とご支援、ご指導に感謝しております。

・今年度は面談や授業参観などがなく学校の様子をあまり知る機会がなく残念でした。その中でも先生方が工夫しながら行事等を行っていただいたことに感謝いたします。

・先生にはいつも子供たちと遊ぶ時間をつくっていただき、とても感謝しています。ひとつひとつの対応が丁寧で、子供たちのことを大切に考えて下さっていると感じています。娘も学校が楽しいと毎日言っており、先生の接し方、誠実さが子供にも伝わっているからだと思います。

・子供たちのために、コロナ対策、行事の精選、学習活動の配慮等、本当にありがとうございます。今年度はいろいろ縮小化、制限されることがありますが、子供が毎日楽しく登校している姿を見て安心しています。

・登下校中やそれ以外でも、横断歩道を渡って車を待たせた際に深々とお辞儀をしているのを見たときはあまりに丁寧で感動したのを覚えています。指導が徹底しているなと思いました。

・校長先生が毎日ゴミなど拾いながら子供たちを見守っていることは大変素晴らしいと思っています。子供たちもしっかり見て学んでいるのでは。私は教育者として素晴らしいと思っています。

・コロナ禍の中、新学習指導要領による教育改革、大変お疲れ様です。これからの時代を生きていくために、「生きる力」を育てるために、先生対生徒ではなく、生徒同士で考えられるよう、知識を与えるのではなく、子供が自らやりたいことを決め、学びを深めていけるよう、テーブルの置き方をグループにし、アクティブラーニングを進めて行って欲しいです。具体的には、物語を作るなど、想像力・創造力を養う授業、子供たちで考え、ピタゴラススイッチ装置を作り上げる、キュボロなど玩具を使ったプログラミング、算数はいろいろな考えがあって答えに行き着くプロセスはいろいろあることなど、自発性・積極性、みんなと協力する、他人の考えを認めることなど、非認知能力を育てることを大事にして行ってほしいです。学校で学んだことをもっと学びたい意欲で家庭学習につなげられればと思います。

・下校時や学校の外での子供たち同士の乱暴な言葉づかい、呼び捨て等気になる。

・今年度は面談も授業参観も全くなかったので、保護者の思いを大切にしている視点に欠けてしまったかなと思いました。時間ごと交代にするなど、工夫して実施しても良いのかなと思いました。